



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

酒匂川のおかめ桜が可愛い赤い花をつけ始めました。花を前に散歩する人同士の会話にも花が咲きます。梅、桃、桜と各地の花だよりに心躍る季節がやってきました。陽気がよくなると外に出かけたくなるもの。清閑亭や内野邸では、小田原ならではの雛様にも出会えます。春の小田原を散策しながら、楽しみな展示が続く新九郎にもぜひ足をお運びください。

新九郎 3月の展覧会のご案内

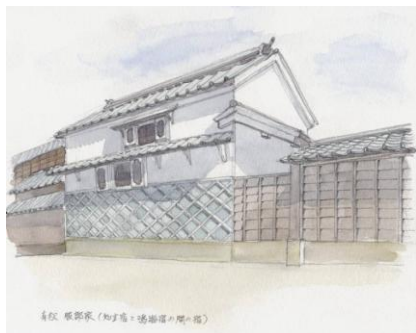
近隣・友の会会員の展覧会情報

	会期 展覧会名	見どころ
	3/4 (水) ~ 9 (月) 第19回西さがみ文芸 展覧会	特別展 湯河原の生んだ俳人父娘 黛執・黛まどか展
	3/11 (水) ~ 16 (月) 第11回スケッチング ウォークの会	会員165名のスケッチ展 裏面に紹介記事を掲載して います。
	3/18 (水) ~ 23 (月) 鈴木隆作陶展	根府川に窯を持つ 青瓷・米色瓷、練込、根府川の 蜜柑灰釉等の器
	3/25 (水) ~ 30 (月) 第21回 おだわら七 壁舎 能面展	会員23名、1年間で制作した約 50点の能面の展示
	3/27 (金) 新九郎デッサン会	どなたでもお気軽にどうぞ！ 18:15-20:45 会費1500円 コスチューム、固定ポーズ

会期・展覧会名	会場
3/11 (水) ~ 3/16 (月) 白梅美術文芸展・第2回	飛鳥画廊 0465-24-2411
3/3 (火) ~ 3/15 (日) 月休館 森久子展	すどう美術館 0465-36-0740
3/3 (火) ~ 3/15 (日) 月休館 マルティン ファウゼル	すどう美術館 0465-36-0740
3/25 (水) ~ 3/30 (月) 大門雅総展	お堀端画廊 0465-23-7819
3/12 (木) ~ 3/15 (日) 香風会・かく展	アオキ画廊 1・2F 0465-22-0825
3/26 (木) ~ 3/28 (土) 糸澤ユウ子着物リメイク展	アオキ画廊 1F 0465-22-0825
3/16 (月) ~ 3/22 (日) 「安藤軍治」生誕100年展	蓮台寺 新客殿 0465-47-2532
1/6 (火) ~ 3/28 (土) 日・月休 川本洋子展 銅版画・陶	野菜料理のレストランルキ 090-2146-5516
3/15 (日) ~ 3/28 (土) 3.11被災 子ども達へのエール-KIZUNA展	ぎやらりー ぜん 0463-83-4031

東海道五十三次 19 (鳴海宿・服部家)

5年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



池鯉鮒(ちりふ)宿と鳴海宿の間に、有松という茶屋集落(間の宿)がある。ここは、有松絞で有名な所である。

天保末年頃のこの村の全戸数は135軒であったが、このうち「絞染商」の家が19軒もあったそうで、絞染でなりたっていた村であることがわかる。この絞りの作業は、農家の副業として行われていた面もあるが、大きな業者は表通りに家を構えて旅人相手に商ったほか、江戸へも販路を拡大していた。

有松には、絞問屋をはじめとした古い家並みが今も残る。なかでも旧藩時代の町屋建築の遺構である服部邸は、旧態をよくとどめている。

愚うことなど 横井山 泰



5月の新九郎の個展に向けて描いている。というか作っている。先月書いたように、新九郎の個展ではパズルから発展したキューブの作品をメインにするつもりである。試みに10cm角で桃太郎を作ったら、大変良い出来上がりであった。そこで、アトリエの隅に放置していた10cm角の柱用の材をカットしてキューブにしてみた。もともと割れている材をパテで埋めて研いでいると、アトリエ大家さんがやってきた。「割れる木はいずれ割れるよ」とのこと、徒労をしてもしょうがない。割れない材を探したところ朴のキューブが見つかった。こちらは恰もよしで描き心地も良いのだが、7cm角である。もう少し大きいものを探してみると木曽檜で12cm角のキューブがあった。在庫を買い占めてアトリエで下処理をしてみると学生時代に初めて200号のキャンバスを目の前にしたような気品である。ううむ、これはいい。70cm角のキューブも3つ作ってもらった。こちらは縦に重ねる作品でかなり巨大になる。下処理ばかりの2月はもうすぐ終わる。なんとかなるだろう。もちろん平面も描いている。

さて、3月19日から22日まで、有楽町の東京国際フォーラムで開催される東京アートフェアに、昨年個展をしたエクリュの森から出品します。ボンちゃんの作品の予定です。





スケッチングウォークの会主宰 松野光純

スケッチングウォークは、目的地まで歩くことにより健康づくりと仲間づくりをしながら風景スケッチを楽しむことを目的としています。
現在、5グループ165名の会員が「アトリエは青空の下、師は自然」を合言葉として毎月定例的に活動しています。



専任講師 川合昭二

横浜は、写生するには題材が豊富で、ロケーションも格好な場所が多い。今回は11月下旬「日本大通り」へ、丁度銀杏が最高潮で大通りは黄色の濃淡に包まれ燃えるような輝きの中にも黄緑の枝葉が入り混じった光景は見事に尽きる。周囲は写生する人々が思い思いに楽しそうに描いている姿に交じり私も一緒に。



小田原第1グループ会長 風間由二

当グループは創設10周年余りになり、会員数は40名弱、その8割を女性会員が占めています。会員の画歴も、初めて絵筆を持つ初心者からベテランまで多種多様ですが、絵の好きなのは皆同じ、ウォーキングを楽しみ、さらに楽しく絵を描くことをモットーに、和気あいあい会が進められています。



小田原第2グループ会長 細田利一

一番の特徴は、会がいつも楽しい雰囲気で蔓延していることです。特に、一年に一度実施している「バススケッチ」では、勉強もたっぷりやりますが、帰りのバスの中での宴会は全員参加の基で大変な盛り上がりです。常に参加率100%に近く、これこそ会の目的である会員相互の親睦の輪が出来、雰囲気の良い活動を続ける原動力です。



小田原第3グループ会長 吉田康雄

メンバーは、現在44名(男性16名、女性28名)。例会は毎月一回木曜日。年の内6回は各地に出掛けてスケッチをしています。秋にはバス旅行、12月には忘年会で親交を深めています。初心者の方は、先生をはじめ先輩会員のアドバイスをもらい上達しています。年2回開催される展示会でその成果を発表しています。和気あいあいの楽しいグループです。



湯河原第1グループ会長 安藤勝

湯河原第7期生として平成23年秋に入会しました。透明水彩の基礎を教えてもらい、楽しさ、難しさを感じ描いています。水をたっぷり使うので、紙が波打たないよう厚地のスケッチ紙を使い、きれいな色を出せるように重色、混色、にじみ等に悪戦苦闘しています。うまくなるには、たくさん描くしかないですね。



湯河原第2グループ会長 平井健司

小生、スケッチングウォークの会に入会して5年余。絵は得意ではありませんが、ウォーキングは好きで、特に登ることが好きです。登る坂道、階段を見るとその頂まで詰めたくなります。昨年6月例会で鎌倉の建長寺に行った折、裏山の半僧坊まで登ってしまいましたが、建長寺を俯瞰する眺望は素晴らしく、思わずスケッチしました。

絵てがみ折々 一小田原の暮らしの中で

野地 三恵



「こんなものが出てきたから」と娘から葉書のファイルを貰った。中には50枚ほどの私の絵てがみ。ちょうど10年ほど前に、娘に宛てて出した葉書だった。

その頃娘は一人暮らしで、息子はまだ家にいた。日々の様子や家族のことなど、結婚式前後の娘へいろいろなことが書いてある。猫を飼い始めたときで、その絵もたくさんある。「そういえばあの時は…」と、葉書を見て思い出することが多く、とても懐かしい。

そうしてこの10年、義母を亡くしたり、孫が生まれたりして、私たちの生活スタイルもずいぶん変わった。様々な思い出とともに、今年もお雛さまを飾る季節になった。

2月のこと



1月末のことであるが、新九郎で「たのしむコトモノ展」(雑貨店 Conte 主催)が開催された。一角にポストカードを展示しているコーナーがあった。8歳になる男の子の作品で、電車の絵がたくさんあった。形は線でしっかりとらえられ、空間の把握も確か。影や面をすばやいハッチングで描いている。8歳でこんな表現ができるものかと驚く。カメラが好きで電車、風景、花等様々なものを撮っている。ポストカードブックにファイルされていたが、8,000枚もあったそうだ。中に1枚A4判の満月を撮った写真があった。ちょうど国旗日の丸と同じ構図で、黒い中空にぽっかりと中秋の名月が浮かんでいる。上辺には光がうっすらと当たり、月の丸みを感じられる。なんの銜いもなく、月を眺め、いいなと思ったそのままをシャッターに納めた。そこに撮った少年の存在が感じられる写真だ。これがデジカメで撮ったというのだから驚く。

少年は残念ながら、その後不慮の交通事故で亡くなった。展示会は神奈川新聞の取材を受け、このコーナーについての記事は、1月24日付カルチャー欄で閲覧できる。